

“共感放送”をヒントにした 減災コミュニケーションの重要性



毎日放送 大牟田智佐子
(兵庫県立大学 客員研究員 学術博士)

ラジオ「ネットワーク1・17」

- ・1995.4.15～継続中
 - ・被災地外：災害への興味薄れ風化
 - ・被災者の課題：個別・具体化
- 「小さな物語」
- ▶▶▶ 課題解決、伝承



番組HP・radiko・ポッドキャスト・YouTubeで
聞き逃し可
<https://www.mbs1179.com/117/>

減災の現実に向ける3つの「つ」

「**つ**ちかう」
「**つ**ながる」
「**つ**たえる」

兵庫県立大学
室崎益輝名誉教授



「大地震両川口津浪記」(安政大津波碑)



2016年8月
(撮影：清水美帆氏)



2005年8月
(撮影：大牟田)



「大地震両川口津浪記」

安政南海地震では大きな揺れを感じて人々が小船に乗って難を逃れようとした。ところがそのあと津波が襲い、船は転覆し橋は落ち、さらにあとから流されてきた船が折り重なり、大勢が亡くなった。

148年前の宝永4年にも地震から避難しようと小船に乗った人が大勢いて、津波で亡くなってしまった。この言い伝えを知る人が少なくなり、同じ原因で死者を多く出すことになってしまった。同じような地震が来たら、決して船で逃げようと思っはいけない。

この文字がいつも読めるように、毎年この石碑の文字に墨を入れなさい。



メディアの活用が有効？



新聞

- 1871年『横濱毎日新聞』
(日本で最初の日刊紙)
(国立国会図書館レファレンス協同データベース)
- 1872年 東京日日新聞
(現在の毎日新聞)
- 1874年 読売新聞
- 1879年 朝日新聞



1891年 濃尾地震 ▶▶▶

濃尾地震によって生じた地表のずれ
(岐阜県根尾村水鳥断層)
撮影：小川一真氏
(政府地震調査研究推進本部－事業報告書－)

ラジオ

- 1923年 関東大震災
▶ラジオ開局を早める
- 1925年 放送開始 (NHKの前身)
- 1934年 室戸台風
- 1941年～1945年 太平洋戦争
(枕崎台風、南海地震)
- 1951年 民放ラジオ 放送開始
(中部日本放送、新日本放送＝現・毎日放送)



関東大震災
京都大学デジタルアーカイブシステム
<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news/2014-07-08>

テレビ

- 1953年2月 NHKテレビ 放送開始
- 1953年8月 民放テレビ 放送開始
(日本テレビ放送網)
- 1954年 洞爺丸台風
(台風進路予想図などの報道できず)
- 1959年 伊勢湾台風
(被害報道から予防報道へ)
- 1964年 新潟地震
(テレビとラジオの役割確立－廣井)



伊勢湾台風
「泥沼と化した名古屋市西部」
(建設省『伊勢湾台風災害誌』)
<http://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubo-usai/h20/09/past.html>

災害放送における役割分担

テレビ ▶ 被害の全体像を全国に



災害放送における役割分担

ラジオ ▶ 被災者のための情報を被災地内に



1993年8月6日 鹿児島8.6水害
(ラジオの呼びかけでドライバーが船に避難)

2004年7月13日 新潟豪雨水害

2009年8月9日 佐用町豪雨水害
(避難途中にも死亡)

2013年「特別警報」設置

2018年6月28日～7月8日 西日本豪雨
(11府県で大雨特別警報)



これらの反省から…



鹿児島8.6水害 薩摩川内市の浸水
提供：国土交通省九州地方整備局
(Yahoo! JAPAN天気・災害

<https://typhoon.yahoo.co.jp/weather/calendar/240/>)

災害に関する情報 増えた



むしろシンプルに…？



個別避難に対しては？



2018年7月岡山県倉敷市真備町・MBSテレビより

・避難スイッチ

- ①情報
- ②身近な異変
- ③人からの呼びかけ

・「素振り」

2018年西日本豪雨

20回「空振り」 21回目「がけ崩れ」

▶「素振り」という名の練習

(京都大学防災研究所 矢守克也教授)

「災害時にはラジオ」 ▶▶▶ なぜ？

- ・電池でも聞ける
- ・持ち運びができる
- ・地域の情報が聞ける…

▶▶▶災害時の「情報」**だけではない手段**



ラジオの「共感放送」

ラジオ特有の災害放送のパターン (大牟田ほか, 2021)

- ラジオ ▶ リスナーの置かれた状況に寄り添い、共感することで
励ましや音楽などを提供する
- リスナー ▶ 被災した者同士や他の災害の被災者、
被災していない人が被災者に心を寄せ、
気持ちを分かち合う。ときには行動を起こす

「共感」

- ▶ sympathy: 同情, 思いやり, あわれみ
「かわいそうな人」
あわれみをかける者とかけられる者
- ▶ empathy: 感情移入, 共感
「自分がその人の立場だったら」
水平の関係

(リーダーズ英和辞典)

災害放送の4パターン

- 被害報道 ▶ 被害の事実
- 防災放送 ▶ 二次被害防止
- 安否放送 ▶ 個人情報
- 生活情報 ▶ ライフライン

(廣井, 2003)

+



- 共感放送 ▶ ラジオとリスナー、リスナー同士の交流

19

放送事業者 = 防災機関

| 法律 | 内容 |
|----------|--|
| 放送法第108条 | 基幹放送事業者は、国内基幹放送等を行うに当たり、(中略)災害が発生し、又は発生するおそれがある場合には、その発生を予防し、又はその被害を軽減するために役立つ放送をするようにしなければならない。 |
| 災害対策基本法 | 放送事業者は国や地方自治体の「指定公共機関」= 情報伝達で協力 |

20

ラジオの具体例

「安否放送」
（被災地にいる家族・友人の安否を心配）

「〇〇さんが▽▽さんを探しています。
ご存知の方は××－××××にお電話をください」▶個人情報



21

ラジオの具体例

「生活情報」
（ライフラインに関する情報 ▶ **リスナーからの情報提供**）

「店の水道がなぜか生きています。
みなさん汲みに来ておられます」



「タクシー会社で水をお分けしています」
ほかに



「被災した妊婦さん、うちに避難しませんか」



22

ラジオの具体例

「呼びかけ」▶ 従来のパターンにない  

「大丈夫、もう夜が明けたから」
「支援に必要な車両が通れない、
被災地に向かうことをいったんやめて」



ラジオの具体例

「音楽リクエスト」▶ 従来のパターンにない



「マス・パーソナル・コミュニケーション」



熊本地震のRKKラジオ

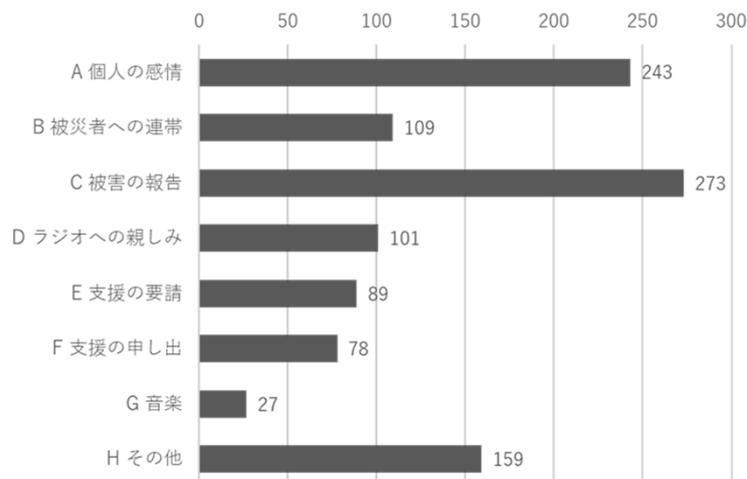
特番 4/15 6:40~12:00 (前震)
4/16・4/17 6:00~18:00 (本震)

- いつものパーソナリティー
- ニュース・中継リポート
- リスナーからのメール&電話
- メール434通 (4/15~4/17)



25

メールに含まれる要素 (8分類)



26

「共感放送」

災害時には人間の本質として存在？



27

インターネットとの違い

- ネット ▶ プル型（オンデマンド）（情報を「絞り込む」スキル）
 - フェイクニュース・デマの危険性
 - （エコーチェンバー・フィルターバブル）
 - 災害時のリスク
- ラジオ ▶ プッシュ型
 - マスコミュニケーション（一斉に同時に）
 - 災害時にも「電池があれば」



28

「災害時にはラジオ」

- 電池でも聞ける
- 持ち運びができる
- 生活情報が聞ける（地域密着）
- 日常を思い出すことができる（安心・共感）
- 気持ち・情報の交流ができる（掲示板）
- 裏どり・編集が行われている（信頼性）
- 災害前～災害時～日常まで継続（伴走者）

29

個別避難に対しては？



2018年7月岡山県倉敷市真備町・MBSテレビより

30

「共感放送」をヒントにしたコミュニケーション

・共感できる関係性 ▶ 日常からの信頼関係



個別避難を促すコミュニティの意思疎通



ありがとうございました

